



ちようふ福祉実践フォーラム開催レポート

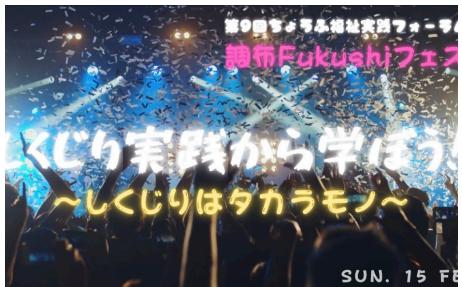
調布Fukushi
フェス

しくじり 実践から学ぼう！ ～しくじりはタカラモノ～

2025年度
VOL.
09
SUN.2.15

PURPOSE OF THE EVENT

第9回ちようふ福祉実践フォーラムのねらい



福祉の現場では、すぐに答えや成果が出ることは少なく、むしろ日々の現場では、戸惑いや悩みを抱えながら、仕事に向き合っていくことが多いのではないかでしょうか。そして、時には思わぬ失敗をしてしまい、落ち込むこともあります。仕事での「しくじり」は、誰でもできれば隠しておきたいと思うものです。でも、勇気を出して話してみると、似た経験をした仲間と共感し合えたり、自分だけでは思い至れないような気付きや教訓を得たりできる「タカラモノ」の体験になるかもしれません。今回のフォーラムは、3人の現役福祉職の経験を追体験し、参加者同士で学び合う事を目的に開催しました。

第1部 実践報告 しくじり経験の報告

①内園 薫さん ②小島 秀人さん ③三牧 由季さん



現役福祉職として市内で活躍中の3名から過去のしくじり経験とそこから得た気付きや学びについて、報告いただきました。

第1部 GUEST TALK 実践報告を受けて

進行役
結城 俊哉さん

立教大学/特別専任教授
当センター運営委員長



TALK GUEST
大久保 摂さん
調布社協元職員

実践報告を受け、大久保さんと結城さんがトークセッションを行いました。お2人が報告内容について意見を交わすことで、報告内容をより深く味わうことためのヒントを得ることができました。

第2部 ゆるっと交流 参加者同士の感想共有・意見交換

第2部は茶話会形式でお茶菓子を食べながらリラックスした雰囲気で参加者同士の交流を行いました。世代の近いメンバーでグループингを行い、感想の共有や仕事の悩み、自身のしくじり経験など、さまざまな話題で盛り上りました。

第1部の報告者やゲストも会場を巡回しながら、興味深い様子で参加者の話に耳を傾けていました。



第3部 まとめ

第9回ちようふ福祉実践フォーラムのまとめ

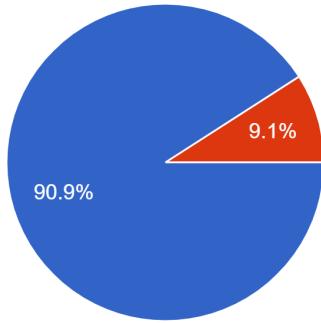


再び、結城さんの進行で第9回ちようふ福祉実践フォーラムのまとめを行いました。はじめに、若い世代を中心にグループングした2つのグループが話題をシェアし、その後、交流会場を巡回した報告者とゲストからコメントをもらい、テーマの「しくじり」について全員で思いを巡らせました。結城さんからは、「人間万事塞翁が馬」（にんげんばんじさいおうがうま）という故事にまつわるエピソードとともに、災い転じて福となすこともあれば、その逆もある。「しくじり」も転じて良い学びや気付きになる可能性を秘めている。というエールをいただき、温かい雰囲気で幕を閉じました。

参加者の声

参加者アンケートの結果

■ 全体の満足度について



- 大変良かった
- 良かった
- どちらともいえない
- あまり良くなかった
- 良くなかった
- その他

全体の雰囲気も、登壇者の講演もゆるっと交流も、ちょいゆるな司会進行も最後の言葉も、全て良かつたです。参加させて頂きありがとうございました。

フェスのとても和やかな雰囲気の中でのフォーラムで普段聞けない体験やモチベーションに繋がる話しを聞くことが出来ました。ありがとうございました。

フェスという名称、飾りつけ、第一部の座席レイアウト、お菓子の用意、進行も話し手も軽くジョークを入れながらの展開、いやらしさを感じさせない盛り上げ笑、音楽あり、会議室の呼称を変える工夫。爽やかな締め。みなさんの普段のあり方が出ている素敵な空間でした。



イキイキした雰囲気でとっても良かったです。

自分と同じ世代には共感出来る部分も多々あった。これから福祉を担っていく人たちに、どこまで響くか伝わるかは引継いで行く私たちの課題である。

企画運営ありがとうございます。このフォーラムに参加させてもらうことで、元気をもらうことができます。今年も明日につながるフォーラムでした。

共感できて、勉強になった時間でした。またフェスと言う名前の通り、参加しやすく、楽しい時間でした。ありがとうございました。

■ その他の感想・ご意見

「対人援助は自分がハッピーでないとできない」という言葉は、意識して自分を大切にしなければ、と思いました。

結城先生のしくじりをしたからこそ学びがある、人間万事塞翁が馬は、人生の幸・不幸は予測不可能であり、安易に一喜一憂すべきでないという教え、良いことがあっても傲慢にならず、悪いことがあっても絶望しない、あるがままを受け入れる姿勢を学ばせていただきました。これこそ人生だと、本当にそう思いました。



失敗を恐れず、それが自分をより強く高めていくチャンスと思えるように変換できる力をつけていきたいと思いました。

福祉の仕事は向かないと思う時期もありましたが、やり続けてきたから見える部分もあるので、その確認ができたことが大きな収穫でした。

同年代の方と交流出来たことで、自分の考えや気持ちを整理出来た気がします。自分から話しに行けない場面が多かったので、周りの方に助けていたいと思うと同時に自分の課題も見える時間だったように感じました。

ほっこりする「しくじり」から、かなりハードな「しくじり」まで、内容の濃い話を聞くことができました。しくじりを乗り越えたエピソードや捉え方が参考になりました。

共感する報告も多く、自分と重ねながら話を聞くことが出来たように感じました。また、ゲストトークも引き込まれる話術であつという間に時間が終わっていました。

今のがそうだ！と気づきが多かったです。なかなか乗り越えられないことが多いですが、諸先輩方もモヤモヤを抱えていたり、こうやって乗り越えてきたのだと思うと、恐れずに、チャレンジしていくと思えました。

